

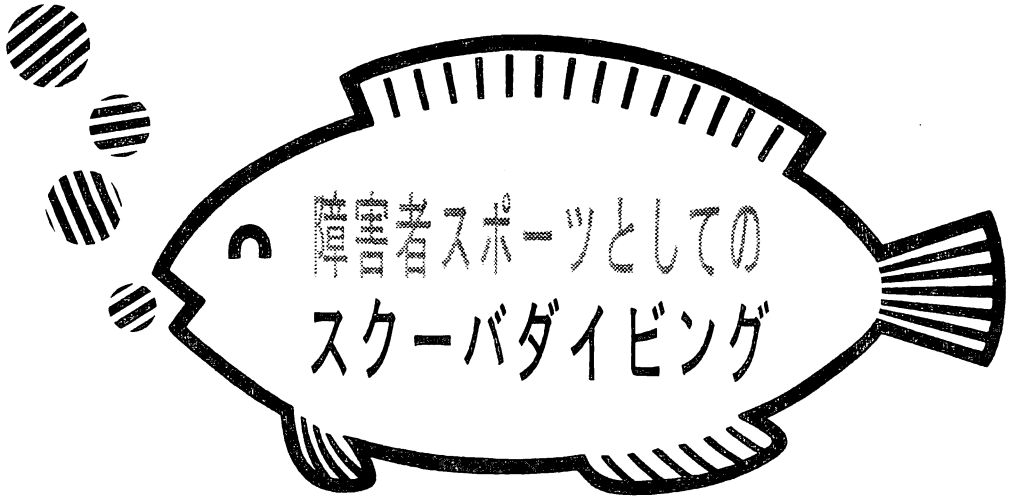
サ
ロ
ン

出会い ふれあい 助け合い

あ
べ
の

NO.

95

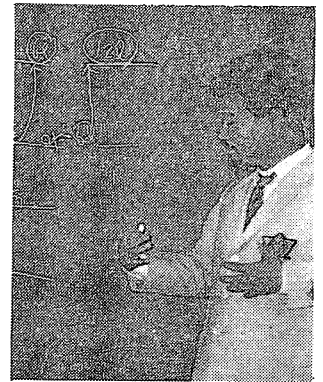


サロン・あべの4月の出会い
94年4月16日(土)、育徳コ
ミュニティセンター研修室にお
いて、サロン・あべのの4月の
出会いを開催した。

パネラーは、JULIA/H
SA Japan代表中塚茂巳
氏。テーマは、障害者スポーツ
としてのスクーバダイビング。
ビデオによる映像のほか、実際
に昨年、スクーバダイビングを
体験した方達のお話も、聞かせ
ていただいた。

JULIAは、90年8月に設
立された、非営利のダイビング
指導団体である。『やさしさ』
をキーワードに、「障害者ダイ
バーの養成」と「環境を守る」
という、ふたつの柱を中心に活
動している。

HSAは、75年にアメリカで
設立された、障害者ダイバーを
指導養成する団体。JULIA
は、その日本支部でもある。



障害者ダイビングにあたって
JULIAのインストラクター
は、障害の種類、原因、特徴の
ほか、解剖生理学や、心理学お
よびダイビングとの関係など、
専門的知識を身につけている。
これは、互いの信頼関係を強め、
スムーズかつ安全に、指導を行
うためにとても重要なことであ
る。

スクーバダイビングは、他人
と競い合う性質のスポーツでは
ない。海の中に潜って、サング
や魚に囲まれながら、時間と空
間を共有し、楽しむスポーツで
ある。スクーバダイビングは、
障害者と健常者が共通の体験が



浜本浩喜氏のもぐり
(写真提供 浜本氏)

できるという、他のスポーツにはない優れた特徴をもっている。海の中で味わう感動に、障害の有無は全く関係ないのである。また、子供からお年寄りまで、年齢、体力に関係なく楽しめるという点から、生涯スポーツとしても、注目されている。

たとえ手足にまひがあっても、実際に水の中に入れば、中性浮力により重力から解放され、かなり楽に体を動かすことができ

る。ある意味では、陸上よりも快適な環境かもしれない。また、普段から手話を使っている人なら、水の中でのコミュニケーションには、とても有利である。

実際に、スクーバダイビングを体験した方達は、「自身が「開いた」「性格が変わった」「開放感を味わった」などのほか、「言葉では言い表わせないほど感動した」そうである。しかし、ビデオを見ても、感想を聞いて

も、その感動は、実際に、海に潜った人にしか分からないのである。悔しいが、「あなたも体験あるのみ」ということか。

だが、問題点もないわけではない。海のきれいなところほど、都会から遠く、また、設備なども整っていない場合がある。つまり、より大きな感動を得よう

とすれば、それなりの覚悟も、必要なのである。しかし、それはダイビング以前の問題である。要は、そのハードルを越える、勇気とやる気があるかということである。勇気とやる気さえあれば、障害に関係なく、ダイビングは可能である。

参加者31名。(上平)

※JULIA = Japan Underwater Leaders & Instructors Association
H S A = Handicapped Scuba Association

サロン寄席のお知らせ

サロン・あべの六月の出会い、新企画「サロン寄席」で、落語をたっぷりとお楽しみください。

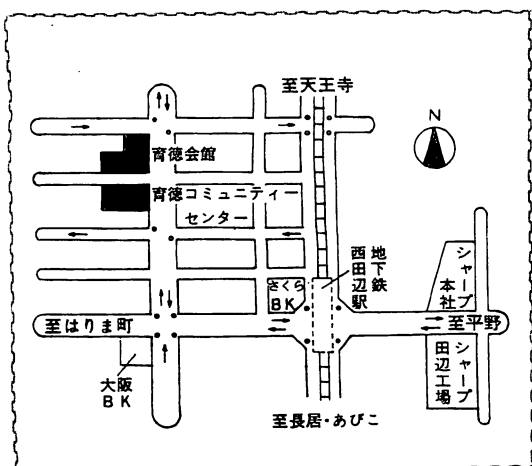
出演 『パンセ羽衣寄席』のみなさん
開演 六月十八日(土)午後一時
会場 「幸分ホール」

阿倍野区阪南町五十二-五
育徳園保育所 三階

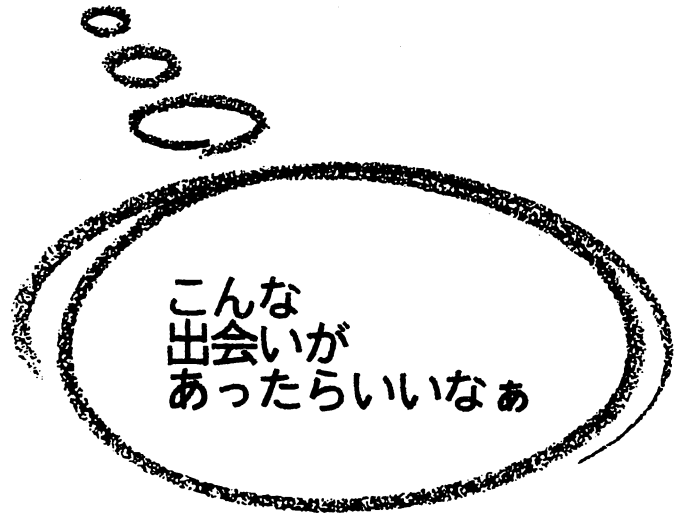
入場料 三百円

お申し込み・お問い合わせ先

☎〇六一六九一一〇二八(富田慶子)



幸分ホールは育徳会館の中にあります。



こんな
出会いが
あったらいいなあ

出会いの楽しさ

町野 旬子

人との出会いほど楽しいものはない。
しかし、私は出会いより、その後の付き
合い方の良し悪しにより、異なると思う。
一度に大勢の人との出会いになれば、自
分のインスピレーションで、各人を分かっ

たような気になるが、話し合うチャンスが
あったりすると、自分の第六感が無残にく
ずれ人を見直したりすることがある。

十人十色、いろいろな人々との出会い、
いろいろな事を吸収させてもらえる楽しさ、
これからも沢山の出会いを求め、自分の未
知の部分に前進をしたく思う。

素晴らしき出会い

曾根 英隆

人にとって出会いとは運命そのものであ
る。それはタンポポにも似ている。

いくら遠くまで飛んでも、そこに土や水
や太陽の光りのうち、どれか一つでもかけ
ると芽は出ない。芽が出ないと花は咲かな
い。人間でいうと能力という芽を出すには
環境があるのである。

世界の発明王のエジソンも学校での成績
はさっぱりだった。しかし、彼の母親はエ
ジソンに「あなたには、とつてもすごい才
能があるのよ。お母さんには、それがわか
るのよ」と彼を信じ続けた。その結果、エ
ジソンは信じられないような能力を発揮し
たのだ。



無論、「99%の努力と1%のひらめき」
とエジソン自身もいつてるように、本人の
血の滲むような努力はいうまでもない。努
力せず花を咲かせようと言うのは、砂の
上に塔を建てるようなものだ。

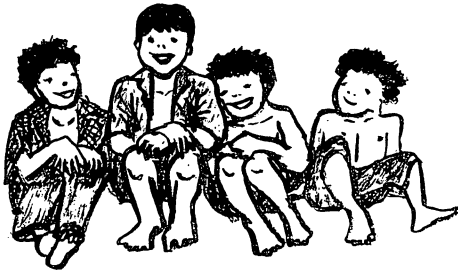
しかし、母の愛情という出会いがなけれ
ば彼はあのような能力を発揮出来たであら
うか。いや、出来なかつたであろう。

やはり、彼は母親という出会いに恵まれ
たのである。そのお陰で芽が出たのだ。
花を咲かせるかどうかはあとの本人の努
力次第である。これは、先天的な出会いだ。
後天的な出会いもある。それは、自分に
とつて花を咲かせてくれる直接の力となる

こんな出会いがほしいなあ～

糺谷 終一

人と出会うのはとても楽しいものである。特に、初めてお目にかかる人に対しては、恋人にでも会うかのような浮き浮きした心地にさせられる。私もいつしか障害者になって10年が過ぎ去った。この間に、お世話になった人やお世話をした人が沢山いる。しかし、私が十二分に知り得ていない人がいることに気がつき、その人たちとの出会いがないことに、今悔いをもっている。その人たちとは、在日外国人の障害者たちである。日本国から何の恩恵も受けていないで、ただひたすらに前向きに生きている彼らの心の内を知り得たならば、私の、否、私たちのやらねばならないことが見えて来るのではないかと思っている。そのような人達との出会いがいつかあればいいなあと心の中で思っている現在である。



出会いだ。しかし、これは自分にそれを受け入れるだけの能力が無いとただの出会いだけで終わってしまう。へたをすると出会った事さえ気付かないかもしれない。それでは花をさかせることは出来ない。自分に合う器の大きさの分しか水は入らないからである。だから、器は出来るだけ大きくす

る必要がある。そのためには、やはり日々努力して、経験と知識を積み上げていくことだ。何事にも興味を示し、物事の明るい面を見て積極的に前向きに生きていく事が大切であると思う。そして、素晴らしい出会いを得、又、他人にとって素晴らしい出会いだと言われるような自分になれるよう

努力していきたい。

つりバカおやじ

窪田 新一

気まぐれな春の天気がようやく落ち着きを取り戻してきた。

夜の十時

「お〜い、はよ来いよ」

「ちよつと待って」

両手にバック・釣竿、背中にはリュックをかっつき、迎えの車に乗り込む。

三人、四人と集まって来る。それぞれの顔はゆるみっぱなしである。他の人から見れば、ちよつとあぶない連中にしか見えなない。そのあぶないおやじ達は車中でのバカ騒ぎをしながら、交代で運転をし、約五時間、和歌山県串本に到着する。

その間、おやじ達はしゃべりっぱなし、話題といえは今までの釣りに行くの内容です。「あれ?…綱さん、海に入っていきよるで」「ほんまや、どないしたんやろ。頭がおかしなつたんと違うか」

「頭だけと違うで、歩き方もちよつとへんやで。お〜い綱さん、えらいこつちや、見

えんようになってしまったやんか」
綱さん、びしょぬれになって、磯に上がってきた。

「どないしたんや」

「いや、まいった。オシッコしている時にバランスをくずした…」

それ以来、おやじ達は磯の上でオシッコをする時は、ライフジャケットを着用するようにになった。

このような内容を尾ヒレをつけ、バカ笑いしながらの釣行行である。

桜の咲く頃になれば、おやじ達の出会い今年も始まる。

私のチャレンジスポーツ

中西利香

私のチャレンジスポーツと題して、書いて下さいと依頼がありました。

今思うと、学校時代に私は、あまりスポーツをする機会がなかったため、スポーツは見て楽しむものと思っていました。

私にはスポーツなど、どうせできないと諦めて、自分からチャレンジしてみようとは思いませんでした。

ある時、ちょっとしたきっかけで、私もスポーツをして楽しむことができるとうことがわかりました。自分に合ったスポーツをみつけることは、とても難しいけれど、いろいろと試しているうちに、ついでにけるものですね。

今私は、スキー、エアロビクスなどいろいろなスポーツを楽しんでいます。そうして、たくさんのおい出もできました。

中でも、とっても素晴らしい経験をして感動しました。それは、昨年の新潟県湯沢にスキーにいった時のことです。私が初めてナイターでスキーをしました。夜のゲレンデは、七色のライトに照らされて、雪がキラキラと光って、口では言い表すことができないほどきれいでした。その中を滑ることができた私は、とっても幸せです。

スポーツをして良かった、スポーツを通していろいろな人に出会うことができている強になります。

私にとってスポーツとは、趣味であり、夢の掛け橋でもあるのです。これからのいろんなスポーツにチャレンジしていこうと思います。

こんな出会いがあったらいいな

森村 爾

以前に「一目会ったその日から恋の花咲く事もある…」で始まるTV番組がありましたよ。僕も人との出会いとはいってもこうでありたいと思っています。

こんな風に奮くと誤解されそうですが、これは異性同性に関係なく、お互い恋するような気持ちで接すれば、相手の事をよく理解しようとし、又、やさしくなれると思うからです。

僕が今までやってきたボランティア活動の中にも、数多くの恋の花が咲いた事もあり、おかげでその何人かの人達とは「バタアシくまちゃん」というグループを作り、現在いっしょに活動しています。

僕は「一期一会」という言葉が好きで、友人の結婚式の色紙などにはかならずこう書くのですが、これはそもそも茶道よりきいて、一期とは人間の一生、一会とは一回会うという事をいっています。

一度の出会いを大切に、その一回に全てをかけて恋をする、そんな生き方をしたいものである。

主役のいなかったステージ

学生時代、ボランテニアとして通った障害児施設に両手両足のない女の子がいた。あの子は、それでも自分で歩いていて。足首から先だけはあつたら、身体全体を右へ左へと傾けながらゆっくりと歩くことができた。

その施設では、障害をもった多くの子どもたちが親から離れて暮らしていた。あの子も、そのなかのひとりだった。年はたしか小学校高学年ぐらいだったと思う。障害児のなかでも特別に障害の重い子どもたちを集めた部屋にいた。

私は、施設にいくと、その部屋を必ず訪問することになっていたが、あの子と二人だけでゆっくり話したのは、ほんの一回きりだ。

それは、夏休みの宿題かなにかを、いつしよに考えたときのことだ。彼女は、足の指だけをつかって、上手に本のページをめくったり、鉛筆で文字を書いたりしていた。宿題に出された問題は、いかにも子ども向きのもので、ふだん、こんな問題を見なれていない

私の目には、鉛筆を足の指にはさんでゆさゆさと揺らして考えている彼女の意外なほど幼い横顔が映っていた。

というのも彼女が、まだほんの子どもにすぎないことを忘れさせるほど、その部屋では、彼女は幼い子どもの世話をしていたのである。もちろん、両手両足がない彼女であつたから、小さな子を抱きあげるとか、車イスを押すとかはできなかつたが、言葉の障害がないために優しい声かけはできたのである。

重い障害の子どもを集めたその部屋では、小さな子どもは、天井を向いて床の上に寝ころがっている。重い言語障害のためか、子ども同士の会話は、ほとんどなかつた。這つて動くこともできないために、じつと長い時間を何ももしないですぐすのである。

だから、言葉の障害がなく、はつきりと明るく話すことができるあの子の声は、この部屋を照らす一条(ひとすじ)の光のようだった。とくに職員が休憩時間にはいり部屋のなかに誰もい

なくなると、彼女は身体を横に倒し、ころころと転(ころ)がりながら、寝ころがっている子どもたちの狭い間を自由に動く。そして、天井をむいたままの幼い子どもたちの顔をのぞきこんでは、微笑みかけたり、何か取つてほしいものがあるか聞くのである。

ある時は、新聞が見たいという小さな男の子のために、新聞を口に加えて歩く彼女の姿があつた。「昨日は巨人が勝つたよね」と言いながら、男の子が見たい野球のページまで足で新聞をめくつていく。わうわうと嬉しそうに言葉にならない声をあげる男の子に、「へえ、五点差だったんだね」と話しつつける。水がほしくても大きな声を出せない子のために、「お水ほしいって！」と代わりに大きな声を出す。トイレに行きたいといっている子どもの声を伝えるに、職員の控室まで行くこともあつた。

そんな彼女が詩を書くことがあり、たまたまその詩が、障害をもった子どもたちの詩に曲をつけて歌うというコンサートに入選した。私は、彼女がいったいどんな詩をつくつたのだろうと期待して、そのコンサートに行った。彼女の番がきて、司会が彼女を紹介

する。彼女は、司会のいろいろな質問にはきはきと答えていた。詩は、空を飛んでどこかに行きたいという、ごくありふれたものだった。

しかし、それでも観客はざわざわと騒いでいた。彼女の姿を見ようと背のびをしたり、きよきよと見回していた。というのも、舞台の上には彼女の姿も、彼女と話している司会の姿もなかったからだ。なんの説明もなく、舞台には誰もいないままに、とつぜん消えてしまった司会と明るく笑いながら話す彼女の声だけがステージに響いていた。

後から聞くと、彼女は舞台の上立つことを嫌がったという。でも、どうして嫌がったのだろう。あんなに明るくきはきと司会者には答えていたのに、なぜだろう。

彼女は恥ずかしかったのだろうか。もしそうだとしたら、恥ずかしいと思わせたのは誰だったのか。その恥ずかしさを、せっかくのいい機会だったのに、なぜそばにいる人は打ち消すことができなかったか。勇気をもって舞台に出るように励ませよかった。彼女はまだほんの子どものものだ。何も知ってはいないのである。

好評のサロングッズ カプリースでも販売



サロングッズの「二筆箋」と「絵葉書」が、衣服やアクセサリーなど身の回りの品々に囲まれて、リサイクル店「オールドロウス カプリース」で、便利でお得な品として販売していただいています。

お近くへ来られた時、ちょっとお立ち寄りしていただけたらと思っています。

オールドロウス カプリース

OKUDA

KURAHASI

〒590...木・金・土の午前十一時～午後六時

住所...大阪市阿倍野区北畠一丁目四一三二

TEL...〇六―六二三一〇三〇三

*カプリースはメンバー制のリサイクルのお店です。会員以外のお求めは二割アップになります。(入会金千円、年会費五百円)

恥ずかしかったのは、主役のいないステージの上で歌われる歌をきかなければならなかった私たちであった。自分の姿を見せることもできないほどに一人の少女を追いつめていることも知

らず、子どもたちを励ますはずの音楽を聞いていたのだ。

あれから十五年以上すぎた。あの子は、もう二十代半ばになっているはずである。(知)

住んでいます。状況は全体的にボンとは違います。私はボンで心理学の上級課程のトレーニングを受けています。ここでは大きな川『ライン』があふれ、そこら中を破壊しました。

では、ドイツの学校のシステムについていくつかをお話しましょう。

すべての子供たちは小学校を4年間行きます。それから3種類のコースと大学へ進むただひとつの高いレベルのコースのどれかを選ばねばなりません。それ故、私たちは小学校の終わる頃すでにより成績を取るために闘わねばならないのです。(子供たちが11歳のとき)ほとんどの親が自分たちの子供を高いレベルの学校へやることを望むからです。なぜなら途中で低いレベルから高いレベルへ変えることは容易なことではないのです。一方親たちは思います。学歴の始まりは後の人生におけるチャンスのために大変重要なことだと。

いったん、高いレベルの学校に入る資格を得ることは、自分の望むどんな大学へも入ることができるということです。たゞ例外は医学や心理学のような学科は大変よい成績を取らねばなりません。なぜなら自由

にできる資格をもてるこれらの学科を学ぼうとする人が多いからなのです。大学卒の資格を得たとしても仕事を見つけることはなかなかむずかしいのです。というのはドイツではいま学生が多すぎるのです。多くの大学卒の専門職の資格をもった人々、特に女性―彼らはタクシーを運転したり、あるいはそのようなたぐいのことをしています。多くの政治家はこの不経済な学校のシステムを変えたがっています。

ドイツでは日本の学生やビジネスマンは大変よい教育、やる気があって順応性もあるというように見られています。彼らは高い評価を得たことを楽しんでいます。そしてドイツ人の経営者は経済の方式を日本から学ぼうと試みています。

こちらでは、4月1日から数日の間、復活祭です。復活祭をご存じですか。ドイツでは子供たちはイースターバニー(復活祭のうさぎ)と共に復活祭を祝います。イースターバニーは卵を隠します。子供はそれを捜さねばなりません。

あなたも幸せなイースターと、楽しいときを過ごされますように。

では次のお手紙まで。



冨田様

先日は、御丁寧な御礼状有難うございました。

講習会の日は短時間でしたが、皆様とお話が出来て楽しい一日を過ごさせていただきました。

こういった機会を通じて障害を持つ方に、気軽に旅行へ出掛けていただけるきっかけ作りが出来れば幸せです。

また、私自身も日常限られた世界で仕事をしているため、皆様とのお話は興味深く、大変勉強になります。また、是非参加させていただきたく思います。

皆様にもよろしく、お伝え下さいませ。

4月18日 ローマにて

日本航空 辻 美佐



海外から

親愛なる慶子さんへ

お手紙と和紙で作ったあなたのすばらしい絵をありがとうございました。

ごめんなさいね。私は右手が正確に使えないのであなたのようなものが送れなくて。

だから、どんな編物も他の方法でする仕

事もできません。幸い私の心理学の仕事は両手をたびたび必要としないので。

初めにあなたの手紙の質問にお答えしましょう。

ドイツの洪水についてあなたは聞かれましたね。幸いウンナは海の近くでもないし、大きな川の近くでもありません。ウンナの近郊のいくつかが、ワインの地下貯蔵室に浸水しました。ついでながら私は、4階に

Unna, 22.3.94

Dear Keiko!

Thank you very much for your last letter and your wonderful picture of Japanese paper. I am sorry, but I can't send you something like that, because I can't need my right hand very exactly. So I can't do well any needle work or other manual work. Fortunately I don't often need both hands for my profession of psychologist.

First I will answer to the questions of your letter. You've heard about the flood in Germany. Fortunately Unna isn't near the sea or near a great river, only in some suburbs of Unna water was flown in the cellars. Besides I'm living on the fourth floor. The situation was totally different in Bonn, where I'm making my advanced training in Psychology. Here the great river "Rhein" flooded and destroyed the whole area around.

Now I will tell you something about our school system in Germany: We have an elementary school for all children for four years. Then children must choose between 3 ways of qualification and only the highest level leads to university. Therefore we have a struggle for good notes already at the end of the elementary school (when children are 11 years old), because nearly all parents wish to send their children to the highest school level, because a change from a lower level to the highest level is very difficult. Besides parents think, already the beginning or the school career is very important for the later chances in life. When you have a certificate of the highest school level you can go to any university you like. Only in some subjects, like medicine or psychology, you must have very good notes, because more pupils wish to study these subjects than there are free capacities. When you have the certificate of the university it's very hard to find a job, because today in Germany we have too much students. Many persons with an academical profession - and especially women - must drive taxi or something like that. Many politicians wish to change this uneconomically school system.

In Germany Japanese students/business men are looked to be very good educated, good motivated and flexible. They enjoy high esteem and German manager try to learn from Japanese way of economy.

In some days - at 1st April - we have Easter. You know Easter? In Germany children celebrate Easter with an Easter-bunny, who hides Easter-eggs, which children must look for. So I wish you happy Easter and a good time til your next letter.

With best wishes

Brigitte

障害者基本法 (上)

上平幸雄

心身障害者対策基本法が23年ぶりにモデルチェンジされ、障害者基本法として、昨年11月の参議院で可決・成立し、12月3日に公布されました。

さて、どこが、どう変わったのか、主な内容について、見てみましょう。

まず、名称から「心身」「対策」という文字がなくなり、同時に、障害者の定義に精神障害者も明記されました。

さらに、完全参加と平等に近い考え方で、基本的理念が新たに付け加えられました。

国には障害者の施策に関する基本計画を

策定することが義務づけられました。更に毎年、国会に施策の概況について報告することになりました。都道府県・市町村についても、努力義務とされています。障害者雇用の促進のため、事業主には努力義務規定が設けられ、国や自治体には、

それをバックアップする責任があることが明確になりました。
アメリカのADAに少し影響されたのでしようか、公共的施設の利用、情報の利用ということに関しても、アクセスを保障するよう努力義務が打ち出されています。
中央障害者施策推進協議会の構成委員には、学識経験者と共に、障害者及び障害者福祉に従事する者からも任命するよう明記されました。

最後に、12月9日が、障害者の日として定められました。

以上、簡単に見てきましたが、今回の法改正が、本当の意味での改正と言えるのかどうか、次回で、もう少し考えてみたいと思います。(つづく)



—— 出会い一〇〇回・サロン紙一〇〇号——を記念して
△サロンの絵葉書Vを作りました。

「花だより」と「出会いの風景」の二種類あります。

ちょっとした近況、お知らせや季節のごあいさつなどにどうぞ。一セット五枚組¥一五〇—

16



はあとが、はろー！

移動とチャレンジ

富田 慶子

昔、在宅障害者のレポートをグループで書く時に、重度肢体障害者にとって移動が大変重要課題であると認識して、取材やまとめをしたことがありました。

その時の私は、現在と変わらない障害を持ちながら「移動」という言葉の味をふかくは考えていませんでした。「移動」というのは、ある一定の距離感を持って考えていたのです。家から外へ出る第一歩が移動の始まりのように思っていたのです。

ところがご指導下さった今は亡き柴田善守先生は、重度障害者にとつての「移動」は「寝返り」や「座位」の姿勢も含めて考えられると、教えていただきました。

「寝返り」が出来れば目線が変わるし、部屋の中を転がる事も可能になる。「座位」が出来れば車椅子で外出が容易になる。これらの動きが移動の始まりという事でしょう。

肢体障害者にとって、どのような移動が出来るかによって、その人自身の生活の範囲が決つてしまうと考えていました私は、あらためて「移動」について考えました。

そして、その限られた行動範囲内でも柔軟な思考と確かな行動の拡がりがあれば、その人自身の生活に関する移動にも様々な豊かな体験が出来るものだとこのことを知りましたのは、サロンでの出会いでした。

昭和六三年二月の出会い「車イスが見た韓国 ハワイ」で、昭和六二年十一月に韓国、昭和六三年一月にハワイへ行ってこられた南光龍平氏と、この二つの旅行を企画された井上憲一氏に話を伺った時でした。

そこで車イスや電動車イスを使用してい

る人達が海外旅行をして、日本国内より移動しやすい環境と、地もとの人々との温かいふれあいなどもあって、とても楽しい旅行であったと話をされました。それを聞いて私もいつかは海外へ行ける機会があるやもしれないと、密かな楽しみを持つようになりました。この時のハワイ旅行では、南光氏と上平氏の両夫妻が井上氏の粋な計らいで、ハワイのポリネシア文化センター内のチャペルで結婚式を挙げられたということでした。

又、平成四年二月の出会いでは「車椅子で ちょっとお出かけ」と題して、大阪市内の電車とリフトバスの利用について磯崎章一氏にお話を伺いました。車椅子での利用に伴う利便さ、不便さが実体験を踏まえて語られ、身近な所から拡がる活動の確かさを感じました。この前年十一月から運行され始めた市のリフトバスは、三路線でしたが、現在は十一路線になっているようです。私も一度乗車したことがありますが、三座席分を空けて車椅子用に設置されることにたいして、他のお客様に申し訳ない思いがしました。でも、車窓から見る街なみ

は目新しく楽しい一時でした。

このように身近な地域からの移動が気軽に出来るようになりますと、電動車椅子を使用している障害者の生活内容もずいぶん違ったものになっていくと考えます。

そして、これら移動の他にもスポーツとしての移動が考えられます。一般的には車椅子マラソンですが、昨年五月の出会いでは、「サッカー サッカー サッカー」と題して、電動車椅子サッカークラブ「ロリングタートル」の土井俊次氏とそのメンバーの方にビデオを見ながら話を伺いました。直径七〇センチほどの大きなボールを電動車椅子で押したり、転がしたりしながら相手方のゴールへ入れ、得点を競うものです。直進しか出来ないように考えていた電動車椅子ですが、メンバー達の鮮やかなハンドルさばきはスポーツの名に値するもので、参加する人たちだけでなく見る人たちにも楽しさを与えてくれる内容がありました。くしくも、この出会いの日はJリーグ開幕の日でもあり、サッカーにたいする関心が高まっています高まったのは言うまでもありません。

重度障害者が移動を考えることは、一見無いなものねだりのようにおもわれがちですが、それぞれが持っている移動の枠を一人が、それぞれが持っている移動の枠を一人
よがりて決めないで、チャレンジしてみる
ことが大切なのだ、これらの出会いで感じました。

おもろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

「いつてきまーす」

朝、職員がセンターへ向かう道で、何名かの寮生さんとすれ違っています。

寮生さんの職場実習を受け入れて下さっている工場へ出勤していく人達です。

私達から見れば、わずかな額ですが、自分でお金を稼ぎ、一般の地域の人達と共に働いているということ
は、彼らにとって大きな自信です。

最近、その中にひととき元氣な男性が加まりました。

てんかん発作があるため、長い間

ヘッドギアが外せなかったAさんが、お薬で発作のコントロールがうまくいき、ヘッドギアが野球帽に代わってすぐ、実習先が決まったのです。

毎朝

「いつてきまーす」

と、寮内と違った、自信にあふれた彼の笑顔を見ると、もっと多くの人に働く場が欲しいと思います。



これは便利。サロンの一筆箋

手紙を書くというのと、どうしても構えてしまって・・・という人、贈り物をする時や、本や写真を送る時などにひと言添えたい場合、便利なのがこの一筆箋です。
文字通り「一筆」を書くための小さな便箋なのです。
ゆっくりといねいに書く時間がなくても、これがあれば一番に伝えたい「ひと言」をすぐに添えることが出来ます。
「生きた言葉」が伝わります。



出合い ふれあい 助け合い

サロンあべの

サロンの一筆箋：150円

美智子のこんな話



岸田 美智子

「それは ないやろ 大阪府さん」

昨日(四月二十六日)に、大阪国障年連絡会議として、大阪府の障害福祉課との交渉がありました。

私たちのライフネットワークが五年間いっ続けてきた地域障害者対象のガイドヘルパー制度を施設障害者にも適用してほしいという要望の結論が、この日に出る予定でした。

昨年の交渉では、大阪府が、私たちの強い要望に押し切られて、九四年度からは施設障害者にもガイドヘルパー制度を適用すると約束していました。だからこの交渉で

は、どのような形で実施されるのか、そういう話になる予定でした。

なのに昨日の内容では、実施すると約束したことをうらぎり、九四年度もガイドヘルパー適用が不可能。施設の措置費の増額の中で、外出介護も行うべきだとして、国に措置費の増額を要望していくという、今までの私たちとの五年間の話し合いをふまえての回答だとは信じられないものでした。
今の施設のひどい生活状況を改善するためには、もちろん措置費の増額は必要ですが、外出介護を今の管理的な施設が行って

いくのは問題が多すぎると思われます。

「いつ、誰が、どこに行っただか」や、障害者個人の人間関係なども、施設が管理してしまふ危険性があります。それに、どこに行くにも職員がついて行くのでは、職員がその障害者の親代わりになってしまったり、人間関係をせめてしまふ危険性があると思います。

現に、生活改善の進んだ東京のある施設では、外出はもちろん自由で、旅行などにも職員が全てついて行ってくれるそうですが、こういう問題が実際に出ています。

外出介護は自立生活にとって、お金の使い方や交通機関の使い方、それに人間関係をひろげていくなど、とても重要なことだと思います。外出介護の問題は、決して施設の中だけで解決していく問題ではなく、ガイドヘルパー制度適用も是非必要なのです。

私たちは大阪府のうらぎり行為に怒りをぶつけていこうと思っています。五月の中旬に再度、交渉をもつことになっていますので、来月にはガイドヘルパーの問題が解決されていけばいいのですが・・・

朗読テープのご案内

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙九四号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、九四号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

又、絵本「未知の記憶」(作・絵川中川勝彦)の朗読テープもあります。

いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。

(☎〇六六九一一〇二八)

感謝します

カンパ、ハガキ、梅茶、お茶菓子、冊子等のご寄贈。一筆箋、絵葉書等、お買い上げありがとうございます。

お礼を申し上げます。

秋野富美子、磯崎章一、柿岡 緑、カプリース、岸 鏡子、坂井 証子、田中美佐保、富田慶子、中塚茂巳、山口豊子、匿名二名。(敬称略)

〇四月のカンパ 金一五、〇〇〇円

いよいよ、サロンの出会いが100回を迎えます。出会い100

回の7月16日(土)には、桃山大学の北野誠一先生のお話「障害者福祉基本法」を予定しています。そこで前もって「…基本法」

のお勉強をしておこうと、上平幸雄さんに「障害者基本法」をお願いしました。井元真澄さんの「高齢者と在宅介護」と河合恵子さんの「作る つくる 創る」はお休みします。(石)

編集後記

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.95[94. 5.21 発行] 定価¥100.
代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303. 電話06-621-4365
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028
表題；斉藤孝文・筆
印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL. 06-691-2365.